

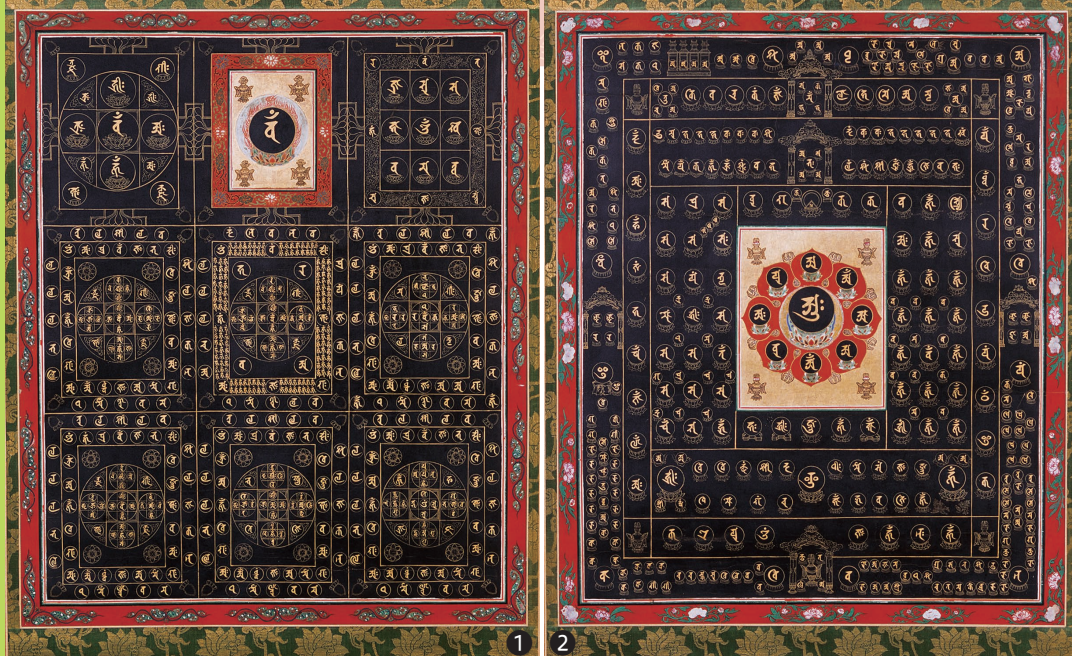
歴女がゆく

発見！私のイチ押し仏像 VOL. 8

市指定文化財
紙本著色

種字両界曼荼羅図

江戸時代／松林寺蔵



曼荼羅とは、仏教の世界観を表現した絵画などのことを指します。今回紹介する種字両界曼荼羅図(いづれも縦62・5センチ横51・5センチ)は、密教が説いている2つの世界である金剛界(写真①)大日如来の知恵の世界と胎藏界(写真②)大日如来の理性の世界を描いたものです。本曼荼羅は、貞享5年(1688)に延命寺の僧である浄蔵が、松林寺の秀榮の依頼で、描いたものといわれています。なお、松林寺の山号は「白鳳山」といい、真言律宗西大寺の末寺となっています。当寺には、この曼荼羅以外にも、府指定文化財の木造不動明王坐像及二童子立像があり、11月16・17日(午前9時30分～午後4時)の2日間、曼荼羅図(レプリカ)と併せて公開されますので、ぜひご覧ください。

この曼荼羅は諸仏の姿を直接描く代わりに文字で仏を表現しているんですよ。

たくさんの仏様が描かれた曼荼羅はよく目にしますが、文字の曼荼羅は初めて見ました。



不動明王は約230年前に生駒山 宝山寺から移されました



副住職の大矢興圓さん



仏像 ZOOM UP! +

画面を紺色に塗り、その上に仏を現す文字、種字を金泥で描いている。各種字を細かく見ると一画一画厳格に描いているが図形が変形した箇所もある。しかし全体としてみれば画面としての整いがみられる。

静かな住宅街の中にある松林寺。延命寺ともゆかりがあるそうです。



今月の歴女

荒田麻友さん

休みの日に寺社めぐりをして仏像や古い建物を見るのが好きです。その時代の文化や生活をうかがい知ることができて面白いですね。歩き疲れたらカフェで一休みするのも楽しみのひとつです。



滝谷駅より徒歩7分、千代田駅徒歩11分

仏像まめ知識 ⑧ 石仏

市内には木製の仏像以外に石仏も多く存在しています。これらの中には、「十三仏」といって、故人の没後、成仏にいたるまでに追善供養を行う際の本尊を浮き彫りにした大型の石仏もあります。(写真は西高野街道沿いでみられる原町の十三仏板碑などの石造物群)

